

平成 27・28 年度 土木学会複合構造委員会 第 5 回幹事会議事録

日 時：平成 28 年 1 月 25 日（月）14:00～17:30

場 所：土木学会 D 会議室

出席者：奥井委員長，西崎副委員長，滝本幹事長，池田幹事，大久保幹事，葛西幹事，斎藤(成)幹事，齋藤(隆)幹事，下村幹事，平幹事，中村幹事，~~広瀬幹事~~，牧幹事，松本幹事，溝江幹事，久米村事務局

配布資料：

- 資料 幹 5-0 平成 27・28 年度第 5 回複合構造委員会幹事会議事次第
- 資料 幹 5-1 平成 27・28 年度第 4 回複合構造委員会幹事会議事録（案）
- 資料 幹 5-2 平成 27・28 年度第 2 回複合構造委員会議事録（案）
- 資料 幹 5-3 論文集特集号準備状況
- 資料 幹 5-4 H181 合成床版指針作成小委員会 講習会報告
- 資料 幹 5-5 複合構造委員会から出版される技術指針について（渡辺委員）
- 資料 幹 5-6 出版関連報告
- ~~資料 幹 5-7-1 H106FRP による構造物の補修・補強指針作成小委員会~~
- 資料 幹 5-7-2 H215 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会
- 資料 幹 5-7-3 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会
- 資料 幹 5-8-1 平成 27 年度功績賞候補推薦について
- 資料 幹 5-8-2 国際貢献賞推薦
- 資料 幹 5-8-3 第 2 回 日本非破壊検査協会睦賞受賞候補者推薦依頼
- 資料 幹 5-8-4 第 4 5 回 日本産業技術大賞推薦依頼
- 資料 幹 5-8-5 田中賞推薦依頼
- 資料 幹 5-9-1-1 H101 複合構造標準示方書小委員会
- 資料 幹 5-9-1-2 報告書 複合構造標準示方書 [2014 年版] 講習会
- 資料 幹 5-9-1-3 対策に関する委員会の設置について
- 資料 幹 5-9-2-1 H103 複合構造の基礎に関する書籍作成小委員会委員会
- 資料 幹 5-9-2-2 今後のスケジュールについて
- ~~資料 幹 5-9-3 H150 各種ずれ止めの性能照査のための評価方法研究小委員会~~
- 資料 幹 5-9-4 H181 合成床版指針作成小委員会
- ~~資料 幹 5-9-5 H212 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会~~
- ~~資料 幹 5-9-6 H213 構造物の更新・改築技術研究小委員会~~
- ~~資料 幹 5-9-7 H214 複合構造の防水・排水研究小委員会~~
- 資料 幹 5-10 平成 27 年度の予算執行状況
- 資料 幹 5-11 平成 28 年度重点研究課題案
- 資料 幹 5-12-1 土木学会全国大会 研究討論会リスト
- 資料 幹 5-12-2 平成 28 年度全国大会開催に伴う研究討論会企画募集
- 資料 幹 5-13 第 6 回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム
- 資料 幹 5-14 日中ワークショップ（国際センター）について
- 資料 幹 5-15 第 11 回独日橋梁シンポジウム開催案内
- 資料 幹 5-16 平成 28 年度ジョイントセミナー実施テーマの募集
- 資料 幹 5-17-1 見える化追加データ提供依頼

資料 幹 5-17-2 見える化_調査研究部門取りまとめ表 (複合構造)

資料 幹 5-18 次回幹事会

議事内容：

0. 委員長挨拶

奥井委員長より、幹事会開催にあたり挨拶があった。

1. 第4回幹事会議事録案の確認 (資料 幹 5-1)

中村幹事より、資料に沿って説明があり、以下の一点を修正した上で承認することとした。

- ・ p. 5~6 「1 3. 日本土木史の執筆について」の4行目：「複合構造委員会は1995~2010年(5年間)」→「2005~2010年(5年間)」に修正する。

なお、功績賞については、今回は推薦が間に合わなかったため、次年度は通知が来る前に余裕をもって検討を進めておくこととなった。

2. 第2回委員会議事録案の確認 (資料 幹 5-2)

滝本幹事長より、資料に沿って説明があり、内容について確認された。以下の一点を修正した上で、次回親委員会にて諮る予定。

- ・ 報告事項「(12)土木学会論文集 A1 特集号：複合構造」2行目「今後無料とする」→「今後も無料とする」に修正する。

3. 土木学会論文集 A1 特集号：複合構造 (資料 幹 5-3)

牧幹事より、資料に沿って説明があった。

掲載編数の増加に伴い、校正費と J-STAGE 掲載料がかなり増加する見込みである旨が報告され、投稿費無料の継続の可否および編集小委員会への予算措置の可能性について議論された。以下のような意見が出されたものの、やはり校正費用の見込み額は親委員会から捻出できる限界を超えており、基本的に外注は困難であると認識された。よって、校正の外注は原則として今回(第3号、編数が少なければ第4号も)までとし、次号以降は内部での校正を検討することとなった。

- ・ 複合シンポは建築からの投稿もあるので、校正費用を参加費に上乗せするのは難しい。
- ・ FRP シンポだけであれば、部分的に補填することは可能ではないか。
- ・ 校正は内部でやるとしても、行事費から謝金を出すくらいはできるのではないか。

合わせて、シンポ投稿原稿からの推薦と投稿された論文の審査の両方を小委員会が担っている現状について、推薦と審査を行う母体を切り離すべきではないかとの問題提起があった。推薦と審査を切り離すことには一定の合理性があるとの認識はあるが、どのような組織構成でそれを行うかについては、現段階ではまだ結論できず、継続審議とする。編集小委員会でも引き続き検討することとした。

4. 「鋼コンクリート合成床版設計・施工指針(案)」講習会報告 (資料 幹 5-4)

大久保幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・ 参加者は77名、収支は186,224円の黒字となった。
- ・ 大阪、名古屋、札幌、福岡で地方開催する予定。

5. 指針のあり方 (資料 幹 5-5)

滝本幹事長より、渡辺忠委員より提出された資料に沿って説明があり、さらに斉藤幹事より補足説明があった。特に、コンクリート標準示方書等の他基準の引用方法、本文と解説の記述方法、複合示方書の引用・利用方法(示方書の枠組みにおける指針の位置づけ)について、さらに、委託で学会が

基準類を作成する際の位置づけ（実務的に使えるものであるべきか否か）についても、幹事会として方針を明確にしておくべきであるとの意見であった。当該意見が確認され、今後の指針作成の際はそれに留意して進めることとなった。

6. 出版関係（資料 幹 5-6）

大久保幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・示方書は全講習会終了時点での数値であり、原価回収まであと 100 部は販売する必要がある。
- ・複合構造レポート 07, 09～12 は、原価回収部数に達しておらず、更なる販促を検討する。

7. 新規小委員会について

(1) FRP による構造物の補修・補強指針作成小委員会（資料なし）

中村幹事より説明があった。

- ・1/28(木)に第 1 回委員会を開催予定。資料 幹 5-5 を委員会資料として出したい旨の要望があり、了解された。
- ※ 資料 幹 5-5 の意見書は、幹事会宛てに届いているので、趣旨を口頭で説明し、資料の配付は行わないこととした。

(2) 複合構造におけるコンクリートの収縮・クリープの影響に関する研究小委員会（資料 幹 5-7-2）

下村幹事より、資料に沿って説明があった。

- ・「構造の観点」をキーワードとして、複合構造におけるコンクリートの収縮、クリープに関する研究を行う。委員会設置はすでに承認されているので、資料の通りの内容で委員公募を行う予定（学会誌 4 月号掲載）。

(3) 複合構造物の構造検査と性能評価に関する研究小委員会（資料 幹 5-7-3）

松本幹事より、新規 2 種委員会の設置について、資料に沿って説明があった。構造性能評価の観点から、合理的な点検の模索と定量的評価法の構築を目指す。コンクリート委員会でも同様の趣旨で委員会が立ち上がる予定だが、本委員会は複合構造物に着目すること、性能評価の観点から必要な点検項目を明らかにすること、性能を数値化すること、等を目的とすることが特徴である。

- ・複合示方書維持管理編では構造性能評価をベースとした枠組みで記述しているので、それをフォローするような活動を行って欲しい、との要望があった。
- ・本委員会を設置することで承認された。ただし、具体的な活動項目を設立趣意書にもう少し加筆修正したものをあらためて幹事会で確認した上で、親委員会でメール審議することとなった。

※ 学会誌 1 月号より、新規委員会の委員公募の記事は、学会ホームページではなく、各研究委員会のホームページ上に設置することになった。ただし、公募項目（現在の表形式のもの）自体は、従来通り 2 ヶ月前に学会へ提出する必要がある。後ほど、事務局から親委員会へ情報を流す。

8. 平成 27 年度功績賞候補推薦・国際貢献賞推薦、他（資料 幹 5-8-1～5）

滝本幹事長より、資料に沿って説明された。委員会内から特に推薦がなかったため、今年度は推薦を行わなかった旨が報告された。次年度は、もう少し時間的な余裕をもって検討を進めることが確認された。

9. 小委員会報告審議事項

(1) H101 示方書委員会（資料 幹 5-9-1-1～3）

斉藤幹事より、資料に沿って説明された。

- ・2014年版の全講習会の終了が報告され、総参加者数242名、360,373円の黒字であった旨が報告された。
 - ・2019年版の小委員会の活動について、これまでに2回の幹事会を開催し、今後コアメンバーを選定して、具体的な改訂方針等について検討する予定である旨が報告された。
 - ・示方書に関連して、資料 幹 5-9-1-3に基づき、維持管理段階での対策に関する2種委員会の設置提案について説明された。コンクリート委員会で設置されている委託委員会の活動も見据えて活動する。資料に目を通した上で、意見があれば齊藤幹事まで伝えることとなった。
- (2) H103 複合構造の基礎に関する書籍作成委員会 (資料 幹 5-9-2-1~2)
- 葛西幹事より、資料に沿って説明があった。
- ・12/17に幹事会を開催、1/29に第1回小委員会を開催予定。
 - ・今回は、誤字脱字の修正と演習問題追加程度の改訂を予定しており、資料 幹 5-9-2-2に記載のスケジュールを進めて、2017年3月に発刊予定である。
 - ・現状の定価に対する原価回収部数を考慮すると、今後定価据え置きのまま増刷を繰り返していくのであれば、最低300部程度を発刊する必要がある。
- (3) H106FRP 補修補強 (資料なし)
- 中村幹事より、口頭で報告された。キックオフの幹事会を1/28に開催する予定。
- (4) H150 ずれ止め (資料なし)
- 平幹事より、口頭で報告された。次回委員会を3/9に開催する予定。
- (5) H181 合成床版 (資料 幹 5-9-4)
- 大久保幹事より、資料に沿って説明があった。
- 指針案の出版および講習会が完了(議題の4を参照)し、委員会活動の終了が報告された。
- (6) H212 耐荷メカ (資料なし)
- 牧幹事より、口頭で報告された。次回委員会を1/28に開催する予定。
- (7) H213 更新 (資料なし)
- 滝本幹事長より、口頭で説明された。
- (8) H214 防水 (資料なし)
- 溝江幹事より、口頭で説明された。年末に第2回委員会を開催した旨が報告された。今後は、WG分けを行い、WG活動を開始すること。3月に第3回委員会を開催予定。

10. 平成27年度の予算執行状況 (資料 幹 5-10)

滝本幹事長より、資料に沿って説明があった。今年度予算の残額が残り60万円弱であり、今後使用予定の委員会等は幹事長へ連絡することとなった。

11. 平成28年度重点研究課題 (資料 幹 5-11)

滝本幹事長より、資料に沿って説明があった。

12月の親委員会での意見もふまえ、自然災害に対する河川堤防のあり方をトピックとして考えている旨が報告された。水工学委員会幹事長の中山先生(神戸大学)に連携を打診し、大筋了解を得ている。学会への提出め切が2/15であるので、複合幹事会として提案書をブラッシュアップした上で、水工学委員会へ投げかけ、水工学の観点からのニーズも加えた上で提出する予定とのこと。

以下の意見が出された。これらもふまえて修正提案書を作成する。

- ・中山先生を副委員長に据えてはどうか。また、中村幹事を幹事として追加することになった。
- ・目的の部分で、「何に対する」新しい構造、新しい対策工法を開発することを目的とするのかを明記した方がよい。

12. 平成28年度研究討論会 (資料 幹 5-12-1~2)

企画 WG の西崎副委員長より、資料に沿って説明があった。

過去数年間の研究討論会の項目（幹事会での案も含む）もふまえ、①施工、②耐久性、③水対策、④複合構造と堤防、という4つの案が提示された。

案1（施工：製作・架設精度、検査・点検方法）を基本線として、もう少し内容を具体的に詰めることとした。次回全国大会は東北開催であるので、復興でやっていることもふまえて（無理に絡めなくてもよい）内容を検討する。提出メ切は3/11であるので、次回幹事会もう一度審議して確定する。

1 3. 第6回 FRP 複合構造・橋梁に関するシンポジウム（資料 幹 5-13）

大久保幹事より、資料に沿ってシンポジウムの講演原稿募集会告について説明があった。

開催日：11/24-25、講演申込メ切：5/27、開催場所：名古屋大学を予定。その他資料に記載の通りの計画で承認された。

1 4. 日中ワークショップ（国際センター）の開催について（資料 幹 5-14）

松本幹事より、資料に沿って説明があった。

トピックはトンネルと橋梁の二本立てであり、橋梁分野のカウンターパートを複合構造委員会で担当して欲しい旨、国際センターの上田委員から依頼された（トンネル分野は神戸大学の芥川先生）。

複合構造委員会としては、国際連携小委員会（奥井小委員長、松本幹事）が担当とすることとして、本ワークショップに対応することとなった。

1 5. 第11回 独日橋梁シンポジウム協賛について（資料 幹 5-15）

滝本幹事長より、資料に沿って説明があった。

複合構造委員会として協賛することで承認され、積極的な参加を呼びかけることとなった。

1 6. 学術交流基金 平成28年度ジョイントセミナー実施テーマの募集（資料 幹 5-16）

滝本幹事長より、資料に沿って説明があった。

国際連携小委員会（奥井小委員長）で対応を検討することとなった。

1 7. 「見える化」データに関する追加依頼（資料 幹 5-17-1～2）

滝本幹事長より、資料に沿って説明があり、追加資料を提出した旨が報告された。

1 8. 次回幹事会（資料 幹 5-18）

次回は3/4-5に富山で開催することとなった。

3/4(金)に現場見学（新湊大橋他を予定）、3/5(土)午前中に幹事会を開催する。

1 9. その他

特になし

以 上

（記録・文責：牧）